

おもちゃのチャチャチャに関する一考察

— 本学の授業実践を通じた考察 —

One Consideration about Omocha-no-ChaChaCha

嶋田 陽子 ・ 今川 典子
SHIMADA, Yoko ・ IMAGAWA, Noriko

キーワード：おもちゃのチャチャチャ、ピアノ初心者、簡易アンサンブル楽譜、ラテン音楽教材、ピアノ指導

はじめに

本学において、ピアノ初心者の割合は少しずつ増えているように感じるが、同じレベルでスタートしたにも関わらず、半年後、1年後の伸びには個人差が出ている現状がある。音楽センスの相違も多少なりとは関係していると思われるが、まず、課題への取り組み方に大きな差があるように見受けられる。

今回は、「おもちゃのチャチャチャ」の伴奏譜（譜例1）を用い、初心者を対象とした楽譜に対する印象、普段の課題への取り組み方についても調査した。そして、その結果を踏まえて、初心者にも対応が可能な簡易コード譜（譜例2）の開発を試みた。

また、「おもちゃのチャチャチャ」の楽曲誕生に関する背景分析を、世界的なラテン音楽の流れから考察したい。

I 初心者を対象としたピアノに関するアンケート内容と結果

I-1

学生たちの課題への取り組み方と伸びにばらつきがあるため、楽譜に対する意識調査、個人練習における問題点を導き出すべく、本学における共通課題である「おもちゃのチャチャチャ」の伴奏譜（譜例1）を、読譜力の確認のために用いた。

ここでの初心者とは、ピアノ経験半年程度の学生を対象とした。初心者の中でバイエル85を基準とし、85以下レベルの学生グループ（13名）、バイエル85まで習得済みの学生グループ（20名）の2つに分けて示す。

この結果から、初心者には、このレベルの伴奏譜の演奏は困難であると感じていることが分かる。左手に関しては、同じ和声間で動きをつけることで響きを少しずつ変え、躍動感と彩を添える素晴らしいアレンジであるの

（表1）

アンケート内容	バイエル 85以下	バイエル 85以下 (13名)	バイエル 85以上	バイエル 85以上 (20名)
① 「おもちゃのチャチャチャ」の楽譜を見て、1週間練習すれば、自力で演奏が出来ると思いますか。（譜例1） いいえの場合は、その理由を選んでください。（複数回答可）	はい 1名/13	いいえ 12名/13 ↓	はい 1名/20	いいえ 19名/20 ↓
・左手の動きが複雑すぎるから		6名/12		15名/19
・ヘ音記号が苦手		3名/12		8名/19
・右手と同時に動かせない		5名/12		10名/19
・どこから手を付けてよいか分からない		2名/12		9名/19

だが、初心者には複雑に感じる要因の1つであるようだ。意外に感じたのだが、バイエル85以上のレベルにも関わらず、全ての項目に不安を感じている学生が3名含まれていたことも分かった。

どこから手を付けてよいか分からないとの答えに関しては、予想に反して、バイエル85以下のグループに関しては割合が低かったが、逆に、バイエル85以上の学生グループでは約半数が感じており、非常に興味深い結果になった。

I-2

次に、他の楽曲も含めての苦手意識の根本を探るべく、4と同様に、バイエル85を基準とした2グループに分けた。質問内容と答えを、表2に示す。

表2

② ピアノを演奏する上で、何を難しいと感じますか。(複数回答可)	バイエル85以下(13名)	バイエル85以上(20名)
・音符を読むこと	6名/13	15名/20
・リズムを把握する事	5名/13	5名/20
・ヘ音記号の楽譜 もしくは ト音記号の楽譜	ヘ音 5名/13 ト音 1名/13	ヘ音 6名/20
・両手でバラバラの動きをすること	10名/13	13名/20
・難しいとは思わない	0名/13	2名/20

どちらのグループも、ヘ音記号の譜読み、両手でのバラバラの動きをすることの2点に関して、かなり高い確率で苦手意識を持っていることが分かる。音符を読むことに関しては、バイエル85以上のグループの方が困難であると感じているが、これに関しては、上達度合に比例した楽譜の難易度変化によるものと考えられる。

I-3

普段の取り組みの実態に関する調査のため、ピアノの練習時間について問いかけた。

ピアノの練習時間	バイエル85以下(13名)	バイエル85以上(20名)
毎日30分以上	2名/13	0名
2~3日に1度(毎日10~15分程度も含む)	7名/13	8名/20
週に2日程度(授業を含めて)	3名/13	10名/20
学校の授業のみ	1名/13	2名/20

そして、練習時間に関して、週に2日程度(授業を含めて)、もしくは、学校の授業時のみ、のどちらかを選択した場合は、まとまった練習時間が取れない理由を尋ねた。

なぜ、練習時間の確保が難しいのか(複数回答可)	バイエル85以下(4名)	バイエル85以上(12名)
アルバイトが忙しい	4名	9名
出来る事ならば、練習をしたくない	0名	1名
課題が難しすぎて、やる気が出ない	5名	3名
その他の回答	・住宅事情により、弾きたいが弾けない	・習い事が忙しく、時間が取れない ・家にいる時間が少ない ・家にピアノがなく、空き時間を上手く活用できない

この結果から、大部分の学生がアルバイトに時間を割かれ、ピアノ練習の時間を作れない状況が見えてきた。中には、アルバイトの後、自宅で練習していたところ、近所迷惑になり苦情が来てしまったために出来ないとの意見もあった。学生の本分を念頭に置き、上手くバランスを取りながら生活のリズムを組み立てて欲しいと感じる。

普段の授業の中でも、自宅での練習が難しい場合には、学校での空き時間の有効活用や早朝練習を薦めているが、ひき続き声掛けをしていきたいと思う。

I-4

最後に、1年後の目標、もしくは、ピアノが上達したらどのようなことに挑戦してみたいかを質問した。

バイエル85以下	バイエル85以上
・楽譜を読めるようになること ・コードを習得して、子どもと一緒に歌いながら弾けるようになること ・好きな曲を弾いてみたい ・やるべきことをしっかりとやり、1年後には初心者から始めたとは思えないレベルにまで上達したい ・バイエルの先へ進みたい ・ピアノを好きになる ・ボランティアの場でも弾いてみたい	・コードをしっかり弾けるようになる ・いろいろな曲に挑戦したい ・好きな曲を弾きたい ・弾き歌いを完璧にしたい ・楽しい曲を多く弾いてみたい ・子供の前で弾けるようになりたい ・楽譜に音名を書かず、スラスラ弾けるようになりたい ・初見力をつけたい ・今よりも上達したい ・スムーズに弾けるように、頑張りたい

このように、非常に前向きな意見が多く、子どもの前で演奏や、一緒に弾き歌いをすることを目標にすることなどが分かった。また、読譜力をつけたいとの意見は、ど

ちらのグループにも複数名おり、バイエル85を習得したグループでも、まだまだ基礎力の定着には努力が必要との認識を持っているようだ。中には、ボランティアで演奏をしてみたいとの意欲的な学生もあり、今後の授業の展開が楽しみである。

Ⅱ 「おもちゃのチャチャチャ」における、ラテン音楽の影響と関係性

Ⅱ-1 キューバ音楽の影響

チャチャチャとは、ラテン音楽であるソンの影響を受けたダンソンの進化形であり、「マラビージャズ (バンド名)」がトゥンバドーラを導入して作り上げたヌエバ・リトモが母体である。ダンソンの後半部分の反復形式を取り入れ、チャチャチャの元祖とされるエンリケ・ホリンの「La Enganadora」は、1953年にキューバで大ヒットした。

「おもちゃのチャチャチャ」は、1957年、TV番組での挿入歌として初登場し、1963年には、日本レコード大賞童謡賞を受賞していることから、50～60年代では絶大な人気を誇っていたことが推察できる。そして、レコード大賞受賞が1963年であることから、「おもちゃのチャチャチャ」は長い年月を経て、日本の音楽シーンに受け入れられていったことが分かる。

現在では、ヒットしたポピュラーミュージックの多くは、発売と同時に人気が上がった後、半年～1年ほどでトレンドが大きく転換し、次から次へと新しい楽曲が発売されていることから、ヒットの法則に関しても50～60年代とは異なっている。

ラテン音楽の流れに着目すると、「おもちゃのチャチャチャ」のメディアへの登場が、チャチャチャの元祖である「La Enganadora」のヒットの4年後であり、キューバと日本間の国交が頻繁では無かった時代であることから、チャチャチャは、米国のマイアミを経由し、日本の音楽業界へ影響を与えたことが推察される。

Ⅱ-2 作品について

作詞・野坂昭如、作曲・越部信義の作品である。

野坂昭如は多才な人物であり、作詞作曲に加え、執筆活動や政治家としての顔も持っていた。

作曲者である越部信義は、NHK番組「おかあさんといっしょ」や「サザエさん」での劇中歌を担当しており、多くの童謡曲を世に送り出している他、著名なTVCMや番組、教育機関への楽曲提供等、幅広く活躍していた。特に、「おしえて タンゴせんせい」「カスターネットでチャチャチャ」「鈴割りチャチャチャ」のように、教育活動にラテン音楽の要素を取り入れた作品もいくつか存在する。

歌詞からも明白のように、おもちゃのチャチャチャの特徴的なフレーズから始まり、中間部を経て、チャチャチャのフレーズが再び現れる。これがチャチャチャの特徴であり、1番から5番までの歌詞による中間部は、必ずその前後にチャチャチャのフレーズが反復されて出て来るのである。この歌詞は、チャチャチャと、おもちゃのちゃの音をかけて作詞をしたとされている。

Ⅱ-3 「おもちゃのチャチャチャ」簡易コードアンサンブル譜の開発

Iで行った調査から、伴奏譜での演奏は困難であると感じている学生が多数存在したため、「おもちゃのチャチャチャ」の簡易コード譜である「譜例2」を作成した。本学の1年生の秋学期では、共通課題としてCメジャー、Fメジャー、GメジャーのI IV V (もしくはV7)の基本コードは習得しており、「譜例2」に示すのは、それらを中心に用いた簡易コード譜である。既存楽譜である「譜例1」には、コード表記が無かったため、新たに和声分析によるコードを追記した。

初心者のかどもの歌の弾き歌いに関しては、コード譜や簡易楽譜に置き換えると、伴奏譜通りに演奏するより容易に弾き歌いに取り組めるようである。これは、読譜のストレスからの解放の結果だと思われる。

そして「譜例2」では、チャチャチャのルーツであるソンを参考にし、ソン・クラーベを基にした打楽器パート¹⁾を加え、アンサンブル時には、よりラテン音楽らしさが感じられるように工夫した。こちらは、左手のコード伴奏時のリズムにも対応できる。加えて、フレーズの最後に現れる、4分音符や8分音符でのチャチャチャの歌詞に合わせて、足を前後に摺り足で動かすチャチャチャステップを加えることも、子供たちにとっては楽しい音楽体験になるのではないかと推測する。

Ⅲ まとめ

今回の調査を通して、初心者におけるピアノ課題への取り組みの現状が明らかになった。また、Iで述べたアンケート結果から、演奏におけるいくつかの問題点を認識することが出来た。

大学生の現状として、時間的な余裕が少なく、その中で有効的な時間の使い方を考えさせると共に、指導する立場においては、効果的な練習方法の教授が必要であると考えられる。演奏が困難な箇所に対する指導の1つの案としては、フレーズ感を考慮した指使いの確認や、記譜上の指示にとらわれない、各々の指の状況に合わせた新たな指番号の提案を、今後も継続して試みていきたい。

また、音楽に対する学生自身の考えを持たせ、演奏する楽曲を通してそのイメージを表現出来るように導くことも、今後、幼児教育に携わる立場になることを想定すると重要なことであると思われる。子供たちの豊かな表現力を育むためには、自らも柔軟な発想を持ち、切磋琢磨しながら精神力も高めていくことが必要なのではないか。ピアノ演奏には、継続的な指トレーニングが必須だが、加えて、音楽を通した豊かな表現力の習得にも留意したいと考えている。

そして、より豊かな表現力を育むためには、イメージを持つことに加え、楽曲に関する分析や背景理解も重要である。今回の研究では、「おもちゃのチャチャチャ」を軸として、世界におけるラテン音楽の流行と日本国内への影響を比較考察した。そして、初心者にも演奏し易いと想定した簡易コード譜（譜例2）を作成し、ソン・クラベをもとにした、簡易アンサンブルへの対応も可能なパーカッションパート付き楽譜の開発も試みた。

今後は、他の楽曲に関しても取り組んでいきたいと考えている。

注

- 1) ここでの打楽器とは、カスタネットやクラベスを想定している。

参考・引用文献

1. 嶋田陽子 (2017)「ソン・クラベに関する一考察」『こども教育宝仙大学紀要 Vol. 8』
2. 小林美実 (1998)『こどものうた200』チャイルド社 p.181
3. 上笙一郎 (2005)『日本童謡事典』東京堂出版 p.83-84,129,149
4. 読売新聞文化部 (1999c)『唱歌・童謡ものがたり』岩波書店 p.62-65
5. 東保/編著 (1982)『やさしくひける幼児のうた』チャイルド社
6. 公益社団法人日本作曲家協会
<http://www.jacompa.or.jp/record.html>

譜例 1

おもちゃのチャチャチャ

野坂昭如 作詩
吉岡 治 補作
越部信義 作曲
伊東慶樹 編曲

Cha cha cha やや早めに

おも ちゃの チャチャチャ おも ちゃのチャチャチャ チャチャチャ おも ちゃの チャ チャ チャ

C G7/B G7/B G7/B G7/B G7⁽⁹⁾ G7 C

1. そ ら に キ ラ キ ラ お ほ し さ ま み ん な す や す や ね ぶ る こ ろ
2. な ま り の へ い た い ト テ チ テ タ ラ ッ バ な ら し て こ ん ぼ ん は
3. と ま ん ぼ み た い な へ リ コ ブ ター ぐ ん と は や い な く ジェ ッ ト キ は
4. き う は お も ちゃ の み ん な た の し く う た い ま し ょ
5. そ ら に さ よ な ら お ほ し さ ま ま ど に お ひ さ ま こ ん に ち は

C C G/B G7/B G7 G/B

おも ちゃは は こ を と び だ し て お ど る お も ちゃの
フ ラ ン ス に ん ぎ う す て き で し ゃ は な の ド レ ス で
サ イ レ ン な ら せ ば は っ し ゃ で す う ち ゅ う ロ ケ ッ ト チ ャ チ ャ チ ャ
こ ひ つ じ メ エ メ エ こ ね こ は ニ ャー こ ぶ た プ ー ス カ
おも ちゃは か え る お も ちゃ ば こ そ し て ね ぶ る よ

F/C Em Am/E G7/B G7⁽⁹⁾ G7 C

おも ちゃの チャチャチャ おも ちゃのチャチャチャ チャチャチャ おも ちゃの チャ チャ チャ

C G7/B G7/B G7/B G7/B G7⁽⁹⁾ G7 C

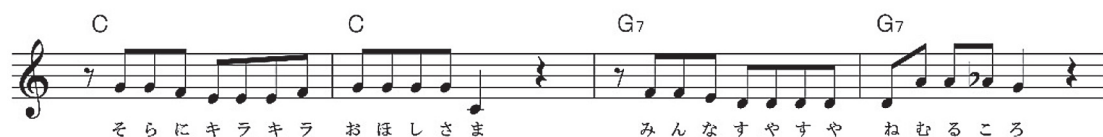
譜例1は、小林美実『こどものうた200』チャイルド社より「おもちゃのチャチャチャ」p.181の楽譜を引用し、新たにコード表記を付け加え、再度作り直したオリジナル譜例である。

譜例 2

おもちゃのチャチャチャ

野坂昭如 作詩
吉岡 治 補作
越部信義 作曲
伊東慶樹 編曲

Cha cha cha やや早めに



譜例2は、ト音記号の旋律は既存のままで簡易コード譜に置き換え、パーカッションパートを新たに加えたオリジナル楽譜である。チャチャチャの歌詞に合わせ、摺り足で前後に動かすチャチャチャステップを取り入れると、より楽しい音楽体験になると考えられる。